KOBE UNIVERSITY OF WELFARE　神戸医療福祉大学後援会報

ともに生きる

No.27
平成26年３月発行

ご　挨　拶

後援会長
藤原（ふじわら）　かおり

春の訪れが待ち遠しいこの頃、後援会の皆様におかれましては、日頃よりご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

校名も新たに代わり、約１年が経とうとしています。後援会と致しましても、大学の充実のためにできる限りの応援をしていきたいと考えております。平成25年の後期の大学行事について、簡単にまとめさせて頂きます。

平成25年後期においても大学ではさまざまな取り組みがなされました。後期教育懇談会は初めての試みであり、保護者と大学との情報交換を行う機会を持ちました。新しい名称でのこうふくフェスタ（学園祭）は、台風27号の影響を心配しましたが、幸い雨もなく開催する事ができました。ステージ企画、模擬店、フリーマーケットなど多彩なイベント内容で大勢の参加者に恵まれ盛況でした。実行委員の皆様、お疲れ様でした。

また、地域連携事業として親子体操教室、学童運動教室は後期においても継続事業として行われています。今年は、参加児童も増え益々地域に根ざした活動として浸透してきました。地域連携をさらに拡大してマラソン大会も実施されると伺っております。

11月から12月にかけては、「異文化への眼差し」というテーマのもとで、これまでの趣向とは異なった公開講座も実施され、民族衣装の紹介などもあり好評を得ました。先生方の研究活動の一端を知ることができ、受講生の方々は新鮮な印象を持たれたことと思います。

さて、福祉系大学としての目標のひとつでもある国家資格取得に向けては、様々な教育支援が行われました。受験対策講座では、社会福祉士として現場で活躍されている卒業生を迎えての講演や弱点科目対策、模擬試験でのアフターフォローなど先生方の熱心な指導がなされました事に対しお礼申し上げます。1月には社会福祉士・精神保健福祉士国家試験が実施されました。受験に向けて頑張られた学生の皆さん、様々な場面で支えてこられたご家族の方々に多くの朗報が入る事を心より願っております。

そして卒業される方々には本学で学んだ「こころの福祉」を実践され、多くの方々が幸福に暮らせるよう様な社会貢献の担い手になられんことを祈念しております。

目　次

・ご 挨 拶 …… 1
・新しい春に意気込みをもって …… 2
・完成年度を迎えて・就職の動向について …… 3
・教育懇談会開催・神戸三宮サテライトキャンパス公開講座 …… 4
・サマーキャンプin福崎キャンパス・神戸医療福祉大学マスコットキャラクター「四葉犬ハッピーちゃん」誕生 …5
・姫路キャンパス公開講座・「学生の視点から見たまちづくり計画」 …… 6
・学生活動の紹介 …… 7
・実習体験記 …… 8
・就職活動を振り返って …… 9
・姫路キャンパス学園祭・大阪天王寺キャンパス初☆学園祭・世界大会に出場決定！平成25年度後期クラブ活動概要報告 ‥10

学部長・教授

山西辰雄（やまにしたつお）

新しい春に意気込みをもって

梅の美しさと香り漂う三月、いかがお過ごしでございましょうか。お伺い申し上げます。大学は25年度の締め括りとともに新年度への準備を真心こめて進めているところです。

【卒業生とそのご父兄に】

はじめに、この春、晴れて学位記を手にし、社会に進出される卒業生の皆さま、そしてご父兄の皆さまに心よりお祝い申し上げます。ご父兄におかれては、ご子弟が大学で４年間を過ごされるについてご苦心やご心労なさってきたことを推察し、敬意を表し、深謝申し上げます。そして、ご子弟の学業の伸展と人格的な成長、友人づくりや進路決定など、喜びとなさることがたくさん生み出されてきていましたとしたら、とても嬉しく存じます。この際に、卒業生の今後の努力・成功とご家族のご多幸を心より祈念します。

【校名変更とその影響】

大学では校名を変更し、１年を経過しました。本学では、姫路キャンパスでの社会福祉学科・健康スポーツコミュニケーション学科の運営、大阪天王寺キャンパスでの経営福祉ビジネス学科の運営、そして神戸三宮サテライトキャンパスでの生涯教育の機会提供など、多角的な事業展開を行っているところです。幸い、高校生や高等学校からの注目度が高まり、今年度のオープンキャンパスは昨年度の３倍の参加者を迎えましたし、志願者もそれに応じ大変に増加しました。

また、社会福祉学部で行う学問の特長は、人の誠実な行動、優しい配慮等を呼び起こすのですが、そこに神戸医療福祉大学としては、明るさとかわいらしさ・親しみやすさを加味し、マスコットキャラクターやシンボルマーク等で表徴してみました(5ページを参照して下さい)。さらに、地域の人たちとの交流・接点の機会を増やし、教職員だけでなしに、むしろ学生を中心として進めるように配慮してまいりました。「人格の優れた良い学生がたくさんいる大学」との喜びや活動をいっそう展開してほしいということも、福崎町長様はじめ地域の人たちからお聞きしているところです。

【個性の伸展を目指して】

キャンパスに緑の看板に白字で大きく「個性の伸展」と記した建学の精神を掲示し、数年を経過しました。教職員が学生諸君に接する際の基本理念でもありますが、徐々に学生諸君の自覚や行動にも反映されてきていることを感じています。もとより青年としての可能性は多彩で大きいだけに、それを胸張って現実に努力し獲得し、表現している学生の姿に接するとき、とても頼もしく、嬉しく存じます。迎える新年度も、そのような喜びが次々に現実となりますように、教職員一体で尽力してまいる所存です。

完成年度を迎えて

大阪天王寺キャンパス長・教授
拾井雅人（ひろい まさと）

大阪城の梅林が見頃を迎え、白や薄紅、そして紅の小さな花を咲かせています。でも、大阪キャンパスは大阪城から約3キロ南の桃谷にあり、たとえ強い北風が吹いても、大阪城の梅の香りを感じることはできません。ふと、菅原道真公の短歌が脳裏をよぎる、そんな今日この頃です。

今から4年前のちょうど今頃、大阪天王寺キャンパスはその産声をあげようとしていました。1期生は留学生ばかり約140名。留学生教育という未知なるテーマへの挑戦が始まろうとしていました。あれから4年。キャンパスはこの1年、初めて卒業生を送り出す、いわゆる完成年度を過ごしてきました。この4年間で、キャンパスは様々な点で大きく成長しました。たとえば、施設・設備において。また教育活動において。そして学生活動において。

開設当初、教室等は専門学校の中に居候するかたちで、教室は2室しかなく、図書館等は手狭でした。現在、教室は一般教室5室のほか、演習室等も整備されています。図書館は閲覧席が視聴覚コーナーも含めて54席あり、蔵書数も1万冊まで増えました。学術雑誌は約75点、視聴覚資料も約75点を数え、学生がレポートや論文の作成に利用したり、教員が教材として使用したりする等幅広く活用されています。

教育活動に関して言えば、この4年間で、日本語教育が進歩しました。当初は学籍番号順の単純なクラス編成でしたが、現在は留学生一人ひとりの日本語力に応じた少人数のクラス編成で授業を行っているほか、昼休みの時間帯を利用して希望学生に日本語能力試験対策を実施する等きめ細やかで実践的な日本語教育を展開しています。

一方、学生生活に目を転じると、学友会の成長を挙げることができます。初年度の会長が翌年度に退学するというハプニングを乗り越え、毎年度、新入生歓迎会、学内親睦イベント等を実現させてきました。今年度は、学生と教職員が一体となったキャンパス独自の学園祭を初めて開催するとともに、多彩な学内イベントをほぼ2か月に1回開催しました。他の大学では味わえないキャンパスライフをエンジョイできる。それが大阪天王寺キャンパスの特徴の1つとなりました。

今後も、本学がめざす「人と環境に優しい福祉の心をもった人材を国際色豊かに育む」教育を最前線で実践していきたいと考えています。

就職の動向について

キャリアサポートセンター部長・教授
井土睦雄（いど むつお）

日頃は、格別のご指導、ご支援をいただいておりますことに感謝申し上げます。

さて、本学の就職の動向についてお伝えします。

1月現在、姫路キャンパスでの就職内定率は約73%となっております。3月末までの正念場を迎えるまで、100%を目指し最後の努力を傾注しているところです。例年95%以上を達成してきましたが、大阪天王寺キャンパスでの留学生支援も含めて、更なる就職活動支援の強化をはかっていきます。

ところで内定者の就職先業種の内訳をみますと、福祉が約73%、次に企業が約18%、そして医療、公務員その他が約9%となっており、非常に福祉分野が多い傾向になっています。このことは本学学生が、社会福祉学部での学修成果を最大限に発揮しようとしている姿でもあります。そして企業も小売、サービス業等、消費者との信頼構築を要請される事業所が多いところをみますと、福祉を学修した学生ならではの手堅い選択だと感じます。

また、業種の変化をみますと、数こそ少ないのですが、スポーツ指導関係の業種も注目すべき点です。来年度には保健体育の教職実習が本格的に始まりますので、こうした機会を捉え、さらに福祉のこころを土台にしながら、スポーツ指導者への夢が実現されることを期待します。

過日、1、2年次のソーシャルワーク演習を教えた学生と出会うことがありました。ある3年の学生は、1年次より課外活動を積極的に活動する学生でしたが、レポートの内容をみても、何か生活や将来に対する覇気が感じられない学生でした。「何のために大学に入ったのか、何も考えられなかった」と、当時を振り返り語ってくれました。ところが、その学生に転機がやってきました。ソーシャルワーク実習指導と実習を乗り越えた頃でした。表情、態度は一段と真剣になり、福祉サービス利用者と向き合い、努力しました。実習現場での社会経験が、その学生に対して、本学で学ぶ価値に改めて気付かせてくれる出来事だったように思います。また、ある4年の学生は、内定をいただき感動している様子でした。「3年生の頃は不安や期待で揺らいでいたね」と伝えると、にやっと笑顔で「正直あの頃は将来の展望もなく、悶々としていた学生でした」と振り返っていました。確かに、将来を想定しながらも、何となく希望していた福祉の実習でした。しかし、実習現場に行き、障がいがありながらも生き生きと活動し暮している人々と接し、学生は180度、気持ちを一新することになりました。まさにその学生は、障がいのある人々の生きざまから、自身の生きがいを再発見し開発する力を教えられていたのでした。そして、努力し現場の指導者から、就職への案内をいただき、内定を勝ち取ることができました。学生時代の悩みは将来への礎です。それをバネにして立ち向かう力をぜひ今後も養成していきたいと思います。

教育懇談会開催

平成25年6月8日および10月19日に本学の姫路キャンパスにて教育懇談会が開催されました。本学における教育活動の取り組み状況のご報告とともに、学生ご本人の学修状況について保護者の方々にご理解いただき、今後の教育活動に活かしていくことをねらいとして、今年度は前期での開催を加え、年2回の開催となりました。

第1回は6月8日に開催され、47組の保護者の方々にご出席いただきました。第1部では、授業、学生活動、実習、国家試験、就職支援の各関係部の代表者より教育に関する取り組み内容の説明が行われました。その後、第2部では個別面談が実施され、授業への出席状況や前年度までの成績等の情報をもとに保護者の方々とクラス・ゼミ担当教員による話し合いが行われました。また、1年生の保護者の方々からは、入学間もないご子女の大学での過ごし方についてのご質問も多く寄せられました。

第2回は10月19日に開催され、19組の方々にご出席いただきました。第1部の教育活動に関するご報告では、教務部長より授業への出席および単位取得に関する指導体制について、国家試験対策委員長からは試験本番に向けての計画的な勉強時間の確保や試験に臨む心構えについてのガイダンスが行われました。そして第2部の個別相談では、前期の学修状況を振り返り、評価される点や改善が望まれる点について相談が行われました。卒業および国家試験受験資格取得に向けた単位取得の見通しや実習までの課題等について、学生ご本人の現状や目標に応じた話し合いを行うことができた点で非常に有意義なものとなりました。

さらに、キャリアサポートセンター前就職部の担当職員による個別相談も同時に実施され、各分野の求人状況や卒業生の就職状況、就職活動の動向についてのガイダンスが行われました。

前期と後期の2回にわたって開催されました教育懇談会は、普段ご家庭で話し合われる機会の少ないご子女の学生生活について、保護者の方々と教職員が情報を共有し今後の方針を話し合う貴重な機会となりました。来年度の開催におきましても、皆様方のご参加をお待ちいたしております。

個別相談の様子

神戸三宮サテライトキャンパス公開講座

神戸三宮サテライトキャンパスでは、地域貢献事業の一環として、公開講座を開催しています。講座では、最先端の研究を踏まえた、生活に活かせる知識と実践方法をお伝えしております。

平成25年度初頭に開催された公開講座「アンチエイジングへのご招待」に引き続き、8月には第二弾として「夏を乗り切ろう！サマースペシャル・イベント」が開催されました。講座では、小学生・中高校生・中高年の方々を対象に、日本の競技、スポーツ、メンタルトレーニングの考え方、体温の仕組み・子どもや高齢者の体温調整能力・熱中症の予防と対処法について本学教員が講演しました。続いて姫路キャンパス内において実施された「キャンプin福崎」にも、多くの公開講座受講生が参加されました。

日　時	テーマ	内　容	講　師
8月17日(土)	「遊びながら体力をつけよう!!」	調整力(バランス能力や運動神経系)を高める運動の実践	中山　忠彦 講師
8月18日(日)	「夏に鍛えよう!!」	持久走、筋力を総合的に高める運動の実践	山本　浩二 助教
8月22日(木)	「熱中症にならないためには」	熱中症の症状と予防、応急手当・対策etc	中井　聖 講師 兒玉　友 助教

8月24日(土)・25日(日)「キャンプin福崎」自然観察 竹クラフト、もちむぎそうめん流し 、花火大会etc

文部科学省委託調査によると、公開講座を開催する意義のひとつとして、ネットワーク構築効果が挙げられています。ネットワーク構築効果とは自治体と大学との協力体制を構築し、地域ニーズを把握する中で、市民のみなさまと連携することを意味します。今後も神戸三宮サテライトキャンパスは、大学に内在する知的資源を公開することで、地域の皆様に貢献し、多くの知見を還元していく所存です。

後援会員の方々もぜひご参加くださいませ。

タオルを使った
ストレッチ体操

サマーキャンプin福崎

昨夏8月24日・25日、「自然いっぱいの福崎で、親子、友人と、夏のひと時を思い出と共に」を合言葉に、1泊2日のサマーキャンプを開催しました。広く地域関係者の方々にご案内いたしましたところ、本学の神戸三宮サテライトキャンパスで学修されたお仲間や、地元福崎町在住のご家族、小学生、友人、本学への入学を志している高校生など、多彩な方々に参加していただきました。

初日では、時々雨の中、クッキング薬膳カレーライスづくりや竹箸、竹器や竹(紙)トンボの工作を行いました。その後、夕べの集いでは、本学のマスコットキャラクター「柴犬(四葉犬)・ハッピー」を本学学生・教職員からご紹介しながら、皆様、腕自慢のカレーライスが、実にフレッシュで、おかわりに笑顔が広がりました。戸外に出ますと、何と、雨足が止みました。ロウソクのほのかな灯りに照らされ、手持ち花火を楽しみ、そして、ドドドーンと花火の大輪が夜空高く舞い上がり、感動の拍手が起こりました。翌日は、プール遊泳に竹細工、自然探検、地元特産品の「もちむぎ」ソーメン流し等を行いました。真剣な眼差しのもと、自然豊かな本学キャンパスのあちらこちらで参加者の歓声が沸き起こっていました。

参加の皆様からは「毎日とは違う時間と自然」、「挑戦」、「家ではできない体験」、「久しぶりに遊んだ」、「親から子への生活体験伝承」、「楽しい思い出」等々の感想をお寄せいただきました。

多くの関係者各位のご支援をいただきましたこと、心よりお礼申し上げます。

「もちむぎ」ソーメン流しに
喜ぶ子どもたち

神戸医療福祉大学 マスコットキャラクター
「四葉犬(しばけん)　ハッピーちゃん」誕生

2013年4月から神戸医療福祉大学への校名変更に伴い、在学生や一般から新キャラクターのアイデアを募集したところ多数のご応募をいただきました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

斬新で楽しいアイデアが多数寄せられ、特に神戸医療福祉大学の愛称である「こうふく大」から、四葉のクローバーを取り入れたデザインが目を引きました。

たくさんのアイデアの中から慎重に協議を重ねた結果、健康スポーツコミュニケーション学科　2年　浦川　拓郎さんの「四葉犬　ハッピー」が見事！原案デザイン大賞を射止めました。浦川さんにデザインについて聞くと、『ハッピー』→『幸福』→『四葉のクローバー』。四葉を別な読み方にすると『シバ』。『シバ』から連想したのが柴犬。柴犬改め、四葉犬にたどり着いたそうです。このアイデアに皆、思わず笑みがこぼれ感心しきりでした。

その他、四葉のクローバーをデザインにとり入れたアイデアを出してくれた生活医療福祉学科　4年　中井　祐史さん他2名の方を、クローバー賞として表彰いたしました。

今後とも『四葉犬　ハッピーちゃん』ともども、神戸医療福祉大学をよろしくお願いします。

学園総長から
表彰を受ける
浦川君

ハッピーちゃん

KOBE
UNIVERSITY
of
WELFARE

幸福の象徴をモチーフにした
大学ロゴマーク

姫路キャンパス 公開講座

姫路キャンパスでは、『異文化への眼差し』を共通テーマとし、公開講座を4回シリーズで開催しました。そして、地元福崎町の皆さまとの交流を深めました。

普段、異国の地とは関わりが少ない方も多いいと思われますが、今回の講演では、アメリカ、イギリス、中国、韓国、ベトナム、ネパール、ミャンマーと沢山の国の異文化を楽しく学ぶことができました。

参加者の方々からは、「今日の講義は面白かった。1980年にアメリカへ行った時のことを思い出すことができました」、「日本から中国に伝わったことばがあることを初めて知りました。文化以外でもこのような事がずいぶんあるだろうと”目からウロコ”です」、「国の衣装、異文化に触れる事ができ楽しかったです」、「ドラマから様々な生活様式など詳しく説明をして頂いて、ドラマの見方も変わり、興味を持てる方法を得ました」等毎回好評を得ました。

色とりどりの民族衣装

日 時	テーマ	講 師
11月16日(土)	留学を通して見たアメリカとイギリス	柴原　直樹教授
11月30日(土)	漢字を通して見る日中の絆	宋　栄芬准教授
12月 7日(土)	アジアを旅してみませんか～民族衣装から見るアジア文化比較～	大工久美子講師
12月21日(土)	ドラマで読み解く韓国社会～最高視聴率 65%の『砂時計』を題材に～	綛谷　智雄教授

「学生の視点から見たまちづくり計画」

グループごとの発表

ワークショップの様子

三浦 克奈雄（みうら かつなお）
臨床福祉心理学科2年

神澤 大樹（かんざわ だいき）
社会福祉学科福祉心理コース1年

坂本 梨菜（さかもと りな）
社会福祉学科福祉心理コース1年

山口 真理子（やまぐち まりこ）
社会福祉学科福祉心理コース1年

今回、福崎町第5次総合計画の策定に関わる「福崎町まちづくり委員会」に参加させて頂いたことは、私たち学生にとってとても貴重な経験になりました。

毎回、産業振興や、教育、文化、福祉など福崎町におけるテーマを設定し、コンサルタントの助言のもと、会議を進めていきました。ワークショップ形式で、他のまちづくり委員の方の意見を聞くことにより、福崎町の魅力を多く知ることが出来たと思います。また、各テーマについて話し合った後、その結果を参加者全員の前で個別に発表を行いました。この発表を通じて単に話し合って終わりというわけではなく、結果に対する様々な角度からの検討や考えをまとめることができ、人前で自分の考えを発表するという良い機会を与えていただきました。委員会の方々は、まちづくりへの興味、関心が高く、学生である私たちにとって、とても良い環境でまちづくり会議に参加することが出来たと思います。

その中でも、学生、町民にとってとても身近な「福崎駅周辺の整備・発展」については、多くの課題や可能性を発見し、福崎町民一体となって駅周辺の開発を推進していきたいとの意見が多数ありました。

私たちは、この活動を通して、多くのことを学んできました。また、まちづくり会議を通じて他の委員の方との交流を深めることができ、福崎町長との懇談会は、学生として自分達に何が出来るのか、何をしなければいけないのかを改めて考えるきっかけになりました。この活動を通して得た多くのことを、これからの学生生活に生かしていけるよう精進していきたいと思います。

学生活動の紹介

交通安全パレード

9月27日（金）に行われた、「秋の交通安全運動啓発パレード」に学生有志が参加しました。福崎町では初めての実施でしたが、町の方々に広く交通安全を啓発することができました。出発式では幼稚園代表の園児と本学学生代表の長嶺夢花さん（福祉健康スポーツ学科4年）が揃って「交通安全の誓い」を述べました。本学学生が持つ横断幕を先頭に自治体キャラクターも参加し、幼児園児も一生懸命に旗を振って行進しました。

鶴居中学校介護体験

10月7日（月）に、市川町立鶴居中学校の1年生32人が介護体験授業のため大学を訪れました。当日は高齢者への思いやりや共感的理解を深めることを目的として、高齢者体験（高齢者の身体の動かしづらさやものの見えにくさを体験する）、機械浴槽の体験（福祉用具・福祉機器を活用した支援を体験する）、手浴体験（心地よさを実感する方法としての手浴を体験する）の3つを実施しました。

食育推進運動

10月17日（木）に、中播磨健康福祉事務所が主催する食育パートナーシップ実践活動が行われました。今回のテーマは「野菜を食べよう!～朝食に“＋野菜”で元気プラス～」。当日は神崎郡いずみ会、地域活動栄養士会の方々が、野菜スープの試食とレシピの配布、朝ごはんバランスチェック、食育アンケートの実施などの活動を通して、学生に対して朝ごはんの大切さや食習慣の改善を啓発されました。

普通救命講習会

12月7日（土）に、B棟8階多目的ホールにおいて中播消防署より2名の講師をお招きして救命救急法の講習を実施し、男女あわせて19名の学生が参加しました。2つのグループに分かれて心肺蘇生法の手順を練習する姿は真剣そのもので、たいへん頼もしく感じられました。

献血キャンペーン

12月11日（水）に、毎年恒例の献血キャンペーンを実施しました。学生ボランティアが兵庫県赤十字血液センター姫路出張所、中播磨健康福祉事務所（福崎保健所）、地元ライオンズクラブの方々とともに、学内で献血への協力を求めました。会場内では骨髄バンクドナー登録のブースも設置され、その説明に耳を傾ける学生の姿が見られました。

今回の献血者数は37名（200mℓが5名、400mℓが32名）でした。

実習体験記

自分自身を知ることの大切さ

生活医療福祉学科3年
山岸（やまぎし）　慶一郎（けいいちろう）

私は、高齢者に対する相談援助に強く関心を持つようになっていたため、姫路市の大白書地域包括支援センターを実習先に選びました。慣れない実践で知識不足を痛感することもありましたが、職員の方にその都度質問し、それに対して丁寧に教えていただきました。また、机の上での学習だけでは学ぶことのできない経験、知識を多く得ることができました。

なかでも、私が得た一番の経験は実習を通した自己覚知（自分自身を知ること）です。福祉の専門職は必ずしも完璧な存在ではなく、常に日々の自分がする行い、発言を振り返り、そこに課題を見つけ、欠点を補うための努力、工夫をすることで自分自身をスキルアップしています。

高齢者の方と接する中で、初めにぶつかった壁が私の人生経験のなさでした。高齢者の方たちは私よりとても多くの経験を積んでおられます。その方たちの相談を受け援助するうえで、高齢者の方を受容し共感することは未熟な私にはとても困難でした。

しかし、だからこそ今回の実習は、私にとって足りないものや欠点など、数えきれない課題が見つかるとともに、それを見つめなおす機会になったと思います。こういった自分自身の課題の発見は、机の上での学習では得ることができません。今回の経験を、今後の自分の目標づくり、スキルアップにつなげていきたいと思っています。

精神保健福祉援助実習について

臨床福祉心理学科4年
井上（いのうえ）　敦（あつし）

私は、ある障害者支援施設（精神ではない）で仕事をしていました。次第に精神の病を持つ人達を対象とした福祉の仕事に関心を持ち、その仕事をするための資格を得る学校を探し、この大学に入学しました。

その資格取得に必要な精神保健福祉援助実習に行くまでのプロセスは中身の濃い内容でした。

実習に行くには実習先を探してお願いするだけでなく、実習先のことを詳しく調べたり、いろんな施設や病院の役割や歴史、そこでの精神保健福祉士の仕事内容、様々な職種の役割、法の裏付け、地域での役割等も理解しなければならず、更に精神医学やリハビリテーション、福祉論、制度論、その他沢山の学問体系や技術論等を勉強し身に付けなければならず、更に現場でのボランティアや講演会等へ一定回数以上参加すること、専門的な本やビデオ等を通しての勉強を一定量以上こなすことが求められ、それらをクリアして初めて実習に行くことができるシステムになっています。

またこの「実習」は遅刻・早退はゆるされず、1回でも欠席したら実習に行けない、というシバリがあり、正直にいって、ここまで厳しくなくても、と思ったりもしました。

しかし、この積み重ねが後の実習に、とても役立ちました。いつの日か、この経験が役立つ日が来ると信じて、これからも進んでいきます。

保育所実習を終えて

生活医療福祉学科児童福祉コース4年
高橋（たかはし）　香緒里（かおり）

保育所実習の1日目は、緊張と不安で一杯でした。保育の実践では戸惑うことも多かったですが、担当して頂いた先生には親切丁寧にご指導していただき、授業では学ぶことのできない経験ができました。

実習中盤、私は、少し体調を崩し子ども達とコミュニケーションをとることが普段より難しかったのですが、一生懸命子どもに関わろうとする想いは、子ども達にも伝わったようでした。その時、子ども達は私の体調の変化に気づき、身体を労わる言葉をかけてくれたり、真剣に私の話に耳を傾けてくれました。子ども達が体調不良を気遣ってくれたことが嬉しかったとともに、相手の事をよく見て考え、思いやる心が育っているのだなと感じました。

また、子ども同士で先生役、子ども役になりきり絵本を読んでいる姿は、大人の口調や仕草を真似していて、保育士は子どもの見本となる言動をしなければならないと気づかされました。子どもは生活の中で様々なものをみたり、聴いたりしながら大人をモデルにして成長しているんだなと感じ、子どもから多くの事を学ぶことができました。

保育所実習を通して、子どもの成長に関わる保育士という仕事の大変さや重要性がよく分かりました。実習後の反省点や課題は多く残りましたが、とても楽しく学びの多い充実した実習でした。

成長のきっかけ

生活医療福祉学科介護福祉コース3年
長﨑（ながさき）　旭央（あきお）

私は、介護実習の中で沢山の未熟な自分と向き合ってきました。

一段階実習では利用者との接し方がわからず、はじめはコミュニケーションも全然図れませんでした。その時私は利用者の立場に立って考える事ができず、自分本位の立場で会話をしていたことに気づきました。

二段階では前段階の反省を踏まえ、利用者が話しやすく、聞き取りやすい様に会話を行うことを意識しました。しかし、私が関わっていた利用者は認知症の症状があり、亡くなった夫が同じ施設に住んでいると言われたり、そこにいる筈のない息子がいると言われたりして、どう接したら良いか分からず四苦八苦しました。そのとき施設の方の助言もあり、その人を「受容」し否定しないことが心の安定に繋がることを学びました。

三段階で関わった利用者も認知症の症状がみられました。ある日、字を書いてもらおうと私のメモ帳を渡しました。その後、返してもらう際に、「これあたしのよ」「いや、これ僕のです」といった押し問答が続き、半ば無理やり返してもらったということがありました。そのときの利用者の悲しそうな表情を見て、二段階で学んだつもりだった「受容」することが、いかに難しいことであるかを思い知らされました。

実習では未熟な自分を突きつけられます。そしてそれは自分の成長のきっかけになる貴重な体験であると思います。

就職活動を振り返って

生活医療福祉学科4年
松本匡平（まつもときょうへい）
内定先　警視庁

私は昨年12月に警視庁から内定を貰う事が出来ました。振り返ってみれば、4月から警察官の採用試験を受け、2次試験で落ちるなど、様々な経験をしました。自分にとって就職活動は改めて自分を見つめ直すきっかけとなりました。また、警察官ならどこでもいいという事ではなく、「警視庁」という目標があり様々な人の支えがあったからこそ、この目標に向かって頑張る事が出来ました。今年の4回生には自分がしたい仕事や目標を持って就職活動に励んで欲しいと思います。

生活医療福祉学科児童福祉コース4年
宮田隆治（みやたりゅうじ）
内定先　社会福祉法人甲賀学園 鹿深の家

私は当初、保育所での就職を希望していました。しかし、就活をどのようにしていいのか分からず、また保育士という職に就くことに対しても、本当にこれで良いのだろうかと悩んでいました。

しかし、夏にソーシャルワーク実習で児童養護施設へ行かせていただいたときに職員の方から、「もしよかったらうちで働かないか」と声をかけていただいたことをきっかけに、徐々に気持ちが変わりました。実習で学んだことを生かすことで、就職させていただくことができたと思います。

経営福祉ビジネス学科4年
陳虹（ちんこう）
内定先　株式会社盛光SCM

3回生の12月から就活を開始。25社に応募して5社から面接の機会を頂きましたが、いずれも初回不採用。納得できず、悔しくて就活を放棄してしまいました。でも、日本で働きたいという夢は消えることはなく、4回生の後期から再開。そのとき、1つの機会を頂きました。やはり緊張いっぱいで臨んだ面接でしたが、2週間後、念願だった内定の連絡。自分を必要としてくれる日本企業がある。その思いは、それまでの苦労や挫折をすべて良い思い出に変えてくれました。この就活で、また一歩成長できたように思っています。

臨床福祉心理学科4年
西口昌太（にしぐちしょうた）
内定先　兵庫県社会福祉事業団

就職活動の面接では失敗も経験しました。しかし、その失敗によって“なぜその職種に興味を持ったのか”、“自分の性格の傾向や長所・短所はどういったものか”など自分を見つめ直すよい機会となりました。就職活動をする中、自己分析を重ねることで無理に企業受けを狙って繕うこともなく、素直な気持ちで面接に臨めるようになりました。また、大学のサポート、関係者の方から得られる情報を上手に使いこなすことも大切だと思いました。

生活医療福祉学科介護福祉コース4年
長澤佐姫（ながさわさき）
内定先　社会福祉法人永世会 愛生苑

私は福祉全般の学習の中で、地域福祉に興味を持ちました。そのため、地域福祉に携わることのできる社会福祉協議会や地域福祉活動に取り組んでおられる法人を中心に就職活動を行いました。4年生の春から本格的に活動を始め、学内のキャリアサポートセンターに届いている求人だけでなく、就職予定地の説明会に参加、福祉人材センターに登録することで幅広く情報収集を行いました。情報収集を行うなかで、第一希望である社会福祉協議会の募集が8～9月頃に出される可能性があることを知り、社会福祉協議会の募集を待つとともに、内定がいただけなかった場合を考え、第二希望である法人の情報収集も引き続き行いました。その後、社会福祉協議会の募集は出されましたが、残念ながら内定をいただくことはできませんでした。しかし、日頃から情報収集をしていたことで、焦ることなく次の就職活動に取り組むことができ、無事に内定をいただくことができました。早いうちから自分が働きたい仕事を見つけ、情報収集を怠らなかったことがスムーズな活動につながったと考えます。最後になりますが、就職活動をサポートしてくださった家族や友人、キャリアサポートセンターの方々に心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

福祉健康スポーツ学科4年
長嶺夢花（ながみねゆめか）
内定先　株式会社はっけん カーブス事業部

私は就職活動解禁と同時に自身の就職活動をスタートさせました。実際に内定を頂いたのは6月の後半で、半年の就職活動の間に15社ほどは落ちたと思います。どんどん内定を貰っていく友人を見て、焦りと劣等感で心が折れそうになったこともありました。しかし今ではあの経験があって良かったと思います。何社もの面接を重ねるのはお金も労力もかかります。でもその分、本気で自分の夢と真剣に向き合う時間も増えました。面接ひとつでも、その時出会った人の考え方から学ぶこと、受ける刺激はたくさんありました。落ちることは決して恥では無かったのだと今は思います。これからの就活生には、すべて自分の未来への投資だと思って、失敗を恐れず、手間を惜しまず、チャレンジしていってほしいと思います。

経営福祉ビジネス学科（姫路キャンパス）4年
藤野淳希（ふじのあつき）
内定先　株式会社やさしい手

私は自身の就職活動を振り返って、ひとつ思うことがある。それはより早く行動にでて余裕を持つべきだ、ということだ。行動開始は学内の説明会と遅い時期で、行動したもののなにもかもが準備不足な事実がとても不安だった。一社のみで内定をいただくことはできたが、終始余裕を感じることはなかった。余裕をもった行動は、後の自信へとつながる。今後就活を行うことになる者たちと自分自身に、これを言い聞かせたいと思う。

姫路キャンパス学園祭

生活医療福祉学科児童福祉コース２年
眞野琴子（まのことみ）

皆さんこんにちは。第14回播彩祭実行委員長を務めさせて頂きました、2年生の眞野琴子です。

今年度は10月26日（土）27日（日）に『第１４回播彩祭～HERO～』を無事に行うことが出来ました。今年の播彩祭では『来場者の方、また開催するにあたりご協力して下さった全ての皆さんが主役となりますように』という想いを込めて、サブタイトルに『HERO』と掲げました。そして、学生団体の模擬店出店や地域の方によるイベント参加、フリーマーケットを始め、近隣の障がい者施設の方々の福祉物産店出店など、多くの触れ合いを持つことが出来ました。

神戸医療福祉大学となりはじめての播彩祭は、多くの方々にご参加頂くこともでき、二日間共にお天気にも恵まれ大盛況のうちに幕を閉じることが出来ました。これも日頃からご指導・ご鞭撻いただいている皆様のお蔭です。播彩祭実行委員会一同、感謝の気持ちでいっぱいです。

最後になりましたが、来年度も播彩祭を宜しくお願い致します。

大阪天王寺キャンパス初☆学園祭

経営福祉ビジネス学科4年
チョウ・ギョウコウ

昨年10月26日の土曜日、大阪キャンパスで初めての学園祭を開催しました。

開催までには、紆余曲折がありました。当初は姫路キャンパスの学園祭を参考にするつもりでした。でも、大阪キャパスでは屋外ステージは無理。キャンパス内の多目的ホールも有名人を招いて集客を狙うだけの広さはなし。参考にするものが見当たらないという状態の中、先生方の温かい助言や励ましの言葉のお陰で、「大阪らしい学園祭を開催すればいい。」と発想の転換を図れるようになりました。

メイン会場である多目的ホールにステージを設け、観客席の周りに模擬店を配置。ステージでは地元のダンス教室に通う子ども達が盛り上げてくれました。これは、学友会メンバーの留学生が飛び込み訪問で出演依頼をした結果、実現したプログラムでした。

クラブ活動のない大阪キャンパスでは、模擬店の店主選びにも工夫が必要でした。留学生が多いという大阪らしさを活かし、お国自慢の料理を出店。中国、日本、ベトナム、ネパール。水餃子に、たこせん。ベトナム店では女子学生がアオザイを着ておもてなし。ネパール店では地元のネパール料理屋さんが出張サービス。どこもめっちゃ美味しかった!

そして、忘れてならないのが教職員のパフォーマンス。当日は全身着ぐるみでキャンパス内をうろうろ。そのまま模擬店の店長に。極めつけはAKB48ダンス!　ちょっとやり過ぎの先生もおられましたが…。キャンパス全体で楽しく盛り上がった一日でした。

来年度は、地域の多くの皆さんに楽しんでいただけるよう、もっとオープンな学園祭にしていきたいと考えています。

世界大会に出場決定！

11月30日（土）栃木県コンセーレ（宇都宮市）にて第25回全日本ベンチプレス選手権大会が開催されました。藤原のどかさん（ウェイトトレーニング部所属、生活医療福祉学科介護福祉コース3年）がジュニア女子57kg級に出場し、2位（記録:95kg）の成績を収めました。その結果、今年の5月にデンマークで開催される世界ジュニアベンチプレス大会、および9月に開催されるアジアベンチプレス大会へ、日本代表選手としての出場が決定しました。大会での活躍を願っております。

平成25年度後期　クラブ活動概要報告

<ウエイトトレーニング部>
近畿ベンチプレス選手権大会
　女子57kg級　優勝　藤原 のどか（生活医療福祉学科 3年）
　男子53kg級　優勝　中井 希章（健康スポーツコミュニケーション学科1年）
　男子66kg級　優勝　大内 颯斗（社会福祉学科 介護福祉コース1年）
　男子74kg級　優勝　宮岡 海斗（社会福祉学科 福祉心理コース1年）
全日本ベンチプレス選手権大会
　Jr.57kg級　2位　藤原 のどか（生活医療福祉学科 3年）※国際大会参加資格獲得
　サブJr.66kg級　6位　大内 颯斗（社会福祉学科 介護福祉コース1年）
<硬式野球部>　近畿学生野球連盟　秋季リーグ戦　3部出場
<軟式野球部>　近畿学生軟式野球連盟　秋季リーグ戦　2部出場
<男子サッカー部>　関西学生サッカーリーグ（後期）　3部Bブロック7位
　優秀選手賞　音田 流偉（健康スポーツコミュニケーション学科3年）
<陸上競技部>　関西学生陸上競技種目別選手権大会　出場
　兵庫陸上競技秋季記録会　出場
<柔道部>　関西学生柔道体重別選手権大会　出場
　山本杯争奪兵庫県学生柔道優勝大会　出場
　兵庫県学生柔道体重別選手権大会　出場
<剣道部>　兵庫学生剣道大会 新人戦　出場
　全日本都道府県対抗剣道優勝大会予選会　出場
　神崎郡剣道協会との合同稽古会を開催
<ダンスサークル>　播彩祭公演、軽音楽部クリスマスライブ ゲスト出演
<手話サークル>　播彩祭公演
<吹奏楽部>　播彩祭公演、地元楽団との合同演奏会
<軽音楽部>　播彩祭公演、クリスマスライブ、卒業ライブの開催

発行日：平成26年3月1日
発　行：神戸医療福祉大学後援会
事務局　学生課　〒679－2217 兵庫県神崎郡福崎町高岡1966-5
TEL（0790）22－5125　FAX（0790）22－6941　E-mail:gakuseibu@sw.kinwu.ac.jp